2016 年 2 月 10 日

五十嵐 敏郎

2015 年度 もったいない学会第 2 回学術事例大会 セッション 5 のまとめ

セッション名：縮小社会研究会セッション
セッションタイトル：縮小社会の必然性
コーディネーター：松久 寛（縮小社会研究会代表理事）
司会役：五十嵐　敏郎
参加者：約 50 名（正式にはカウントしていないのでおおよその数字。もう少し多かったかもしれない）

このセッションでは、松久さんの基調講演と 4 名の報告者による講演があり、引き続き講演者によるパネルディスカッションが行われた。
講演者名とタイトルは、
基調講演：松久 寛　（縮小社会研究会代表理事）
「縮小社会の必然性」
講演１：三木 卓　（ナショナルヴィレッジ(株)）
「エゴとお金の構造と縮小社会」
講演２：瀬野 喜代（荒川区会議員）
「政治で縮小を言えるのか」
講演３：山本 達也（清泉女子大学）
「縮小社会における情報と民主主義」
講演４：新津 尚子（幸せ経済社会研究所）
「縮小社会における幸せとは」

講演のタイトルからわかるように、政治、経済、情報発信や就活に絡めた若者の意識問題まで多方面の問題が取り上げられ、もったいないという考えを広め、縮小社会を築いていくには幅広い取り組みが必要なことがうかがえた。
時間が 1 時間 45 分と限られていたので、事前にコーディネーターと打ち合わせ、基調講演は 20 分、講演は各 10 分と無茶なお願いをしたが、限られた時間の中で要点をかいつまんでお話しいただき、参加者は講演者の話したいことをある程度理解いただいたのではないかと考えている。
パネルディスカッションで、他の講演を聞いたうえで自分の講演の補足をされた。時間が限られていたので、一言ずつ話しをされ、パネラー間のディスカッション抜きでフロアーとの質疑応答に入った。今回は、できる限りフロアーからの質問時間を多く取ることをめざし、20 分の質疑応答時間が確保でき、約 10 件の質疑応答が行われた。

全体の印象：時間が限られる中で、広範囲の話題について多くの基本的な問題を提起していただけました。一例をあげると、新津さんの話では、「若い人は個人の生活を重視する企業への就職を求めている」ということでしたが、縮小社会は若い人の方が受け入れるのではないかという希望を持たされました。フロアーとの質疑応答では活発な議論がおこなわれた。その点では、予定通りでしたが、提起された問題はそれぞれもっと時間をかけて討議するべきであり、少し消化不良であった。本来は、フロアーからの質問を契機に、フロアー間やフロアーとパネラー、パネラー間で議論が発展していくことが理想であるが、今回はフロアーとパネラー間の質疑応答になってしまったことが残念である。ただ、その後に行われた懇親会で、質疑応答の続きが行われたのではないかと想像している。

写真：
基調講演

（村上 ゆい さん提供）

（松久 寛 さん 提供）

なお、このセッションは、一般社団法人　都市生活者の農力向上委員会代表理事でオルタナ特集記者／ソーシャル・ユーチューバーの西村 豊さんがネットアップを前提とした動画撮影取材をされています。